

## 代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

## くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7  
TEL 03(3404)7661  
E-mail address yo\_sosiki@tokyo-kinikai.com  
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

2014年2月に代々木病院では、透析室の機械25台全てを最新の「オンラインHDF」に切り替えました。新しい機械の特徴、今後の展開について副院長で透析科長の代田和博医師に聞きました。

## 新しい透析機械を導入



新装された透析室

コンソール。患者さんのベッドの脇にあり、透析液を供給し透析を監視します。

## 【透析機械更新の特徴】

- 高度に清浄化された透析液の使用
 

【効果】合併症の予防
- 個人に合わせた細かな透析条件の設定
 

【効果】身体にかかる負担を軽減
- 接続、返血操作の自動化
 

【効果】医療事故の防止

代田医師 代々木病院は今回技術革新や機械の老朽化に伴う機械の更新をしてきました。また医療費を心配せず透析を継続できました。

その後、規模を拡大し透析の機械を新しくする時期でしたので、どういう機械を選択するのか検討しました。



代田医師 最後に患者さんにお伝えしたい事は、代々木病院は地域とともに歩んでいる

医師、技術者も少なく機械台数も1970年では全国にわずか108台でした(2012年は12万台)。

また医療費の負担も高額のため利用できる人が限られ、「金の切れ目が命の切れ目」と言わっていました。

その後、規模を拡大し透析の機械を新しくする時期でしたので、どういう機械を選択するのか検討しました。

透析法を開始したのは1970年です。全国的に透析療法が開始され健康保険の適用になったのが1968年で、従事する

医師、技術者も少なく機械台数も1970年では全国にわずか108台でした(2012年は12万台)。

また医療費の負担も高額のため利用できる人が限られ、「金の切れ目が命の切れ目」と言わっていました。

その後、規模を拡大し透析の機械を新しくする時期でしたので、どういう機械を選択するのか検討しました。

透析機械の更新で、最も良いオンラインHDF

の治療ができる設備に全て刷新しました。今後も

透析機械の更新で、最も良いオンラインHDF

の治療